



奈良支部イベントニュース

No. 335

2020.3.1 発行

(発行所)

(公財)日本電信電話ユーザ協会
奈良支部事務局

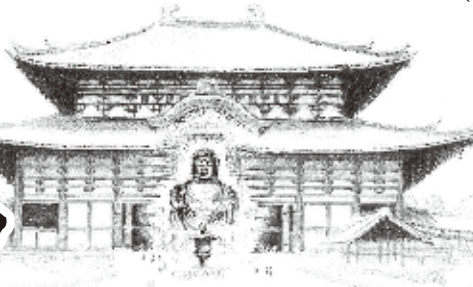
〒630-8236 奈良市下三条町1-1

☎ (0742)95-5800

FAX (0742)93-4129

URL <http://www.pi.jtua.or.jp/nara/>

E-mail jtua311@jtua.or.jp



2020年 新春特別講演会を開催しました

1月28日(火)、ホテル日航奈良において、ニューヨーク州弁護士の山口 真由 氏を、お招きし、「岐路に立つ日本 ~今後進むべき進路の選択~」と題して、ご講演をいただきました。(以下、講演要旨)



山口 真由 氏

日本が経済大国であり続けるために安定成長の時代に最適モデルであった「家族型組織」が、激動の時代にはそうではなくなる可能性がある。その背景には、これからの社会を担う世代、いわゆる「ミレニアル世代(1981年~1995年生まれ)」や「Z世代(1996年以降生まれ)」の特徴として、デジタル依存性や個人主義がある。



主催者代表挨拶
小山 新造 支部長

これからの日本の組織は、先ず、映像による感情を優先する時代に対応しなければならず、法律に違反していなくても、世論によって「感情の法廷」に立たされることを想定し、コンプライアンスを考えていく必要がある。

次に、個人主義への対応で、大切な考えが、「ポリティカル・コレクトネス」である。あらゆる人、特に少数者を差別しない、不快な思いをさせない表現を徹底する考え方のものであるが、「肌色」という言葉や「LGBT」はポリコレ違反になる。世界からポリコレの波が日本にも押し寄せてきており、ポリコレ感覚が欧米人並みのミレニウム世代やZ世代に「女子力高め」や「男だろ」は黄信号がともしつつある。

日本の組織は、個人の選択の時代に入ろうとしており、激動の時代には、家族型組織のケアという良い面を維持しつつ、個人と個人の関係を重視した組織のあり方に見直すことが、これからの日本の組織の再生につながるのではないかと。



2020年度ビジネスマナー研修 申込み受付中!

テーマ・講師 「新入・若手社員研修」 JBMコンサルタント 佐々木 優水 講師

開催日時・場所 2020年4月10日(金) 10:00~17:00 生駒商工会議所 603会議室

※ 「生駒商工会議所」との共同開催

テーマ・講師 「フレッシュビジネスマナー研修」 オフィスフロレゾン 中 可子 講師

開催日時・場所 2020年4月15日(水) 9:30~16:30 奈良商工会議所 4F 小ホール

※ カリキュラム等の詳細については、同封の案内チラシをご覧ください。

2020年 ICT&コミュニケーションセミナーを開催しました

1月23日(木)、奈良ロイヤルホテルにおいて、2020年ICT&コミュニケーションセミナーを開催しました。

第1部 日本郵政(株) 総務・人事部門 企画役 伊藤 伸也 氏

テーマ「従業員自らが働く働き方改革の推進」



50年前の「スポ根」は死語に、30年前の「企業戦士」は使ってはいけない言葉に、最近の中学生が職業として「将来はYouTuber」になりたいなど、今は、あの時のやり方は通用しない時代であるという考え方が重要である。

また、今は、①人手不足倒産が過去最多、②「超」高齢化社会、③「超」少子化社会、④シンギュラティ(AIが人間の知能を超える転換点)の急迫、が社会現象として起きている。この現象を経済面から見ると、人口オーナス期(人口構造が経済に負荷になる時期)であり、この時期は、なるべく条件の違う人を揃えるなど使える労働力はフルに活用する(多様性を認め合う)必要がある。

働き方改革とは、労働時間を減らすことではなく、長時間労働を減らして生産性を上げることである。そのためには、「時間をかけずに成果を出す」という時間に対する価値観を変えること、「互いの違い(強み)を尊重し、1つのチームとしてイノベーションを生み出す」、いわゆる多様性による生産性の向上を図ることが不可欠である。



会社は生産性の向上に向けて、社員が働きやすい制度やルールをつくり、多様な働き方を社員に提示し、社員は、仕事を時間内に仕上げることを目的に、自ら働き方を選び、自ら働き方をデザインすることである。目指すべきは、社員を管理する組織ではなく、社員が自走する組織である。これが働き方改革の本質である。最近は、「生き残るものは、強いものでも、賢いものでもなく変化できたものである」と言われている。

第2部 (株)デジタルハーツホールディングス シニアアナリスト 大芝 大 氏

テーマ「サイバーセキュリティ対策 最前線」



大きなイベントのある時はサイバー攻撃活動が活発になってくる。2020年の東京オリンピックもその対象になると思われる。攻撃の対象は、基本的には国の関係と協賛企業であるが、今年になって攻撃対象の関連企業を狙うサプライチェーン攻撃のリスクに注目が集まっている。

その一例としてEmotetというマルウェアが、昨年10月頃からたいへん流行している。Emotetとは検出が難しいのと使い勝手がいいことを理由に、Windowsに標準搭載されているPowerShellなどのツールを悪用するWordファイルのマクロマルウェアで、感染した端末のメール情報の返信でマルウェアを拡散する非常に悪質なものである。また、ランサムウェアにおいても、作り手と使い手の分業が進んだり、身代金の要求に被害者の情報を公開すると脅迫したり、より高度に、より悪質になってきている。

サイバー攻撃の事例を見ていると、悪性の高いものはメールをきっかけとするものが多い。サイバー攻撃の対策は、地道にやること。まずはWindows Updateを迅速に行うこと。次に、業務で使用しない①PowerShell、②Officeの動的データ交換、③Officeのマクロ設定のそれぞれの無効化、④Web検索はChrome等の利用、の4つは直ぐに実施すること。また、PassThe Hash対策としてビルトインAdministratorを業務で使っていたり有効化している人は無効化した方がいい。このように要らない機能はOFFにして、PCの堅牢化を進めていくこと、そして、実際に攻撃され時の事前のルールを決めておくことが大切である。



「電話対応コンクールの対策指導」開催のご案内

参加対象やカリキュラム、申込方法等の詳細については、同封の案内チラシをご覧ください。